

「参加しやすい研修の実施方法等に関する調査」結果の概要と総括

2025年3月25日

公益社団法人日本介護福祉士会

会長 及川 ゆりこ

新型コロナウイルス感染症等の影響、施設・事業所における人材不足など様々な事情により、従来型の研修への参加が難しい状況もある一方、オンラインツールを用いた研修なども広く普及してきました。

これからも介護ニーズに応えていくために、また、より質の高い介護を提供していくために、研修の機会が重要なものであることには変わりありません。本アンケートでは、参加しやすい研修の実施方法に関する外形的な要素を把握することにより、介護福祉士会が提供する研修の企画・運営の参考とすることを目的として、運営サポーターを対象とする調査を実施しましたのでご報告いたします。

【主な結果の概要】

1. 研修のテーマのほか、知人や職場など顔が見える関係からの声、参加を考えるきっかけや参加意欲に影響する

回答者のほぼ全員が、研修テーマが、研修への参加を考えるきっかけになったり、参加意欲に影響したりすると回答しており、ニーズや興味・関心に応えるものが求められていることが確認された。

また、知人や職場からのすすめが影響するとの回答が、チラシやクチコミに比して多く、顔を見知った関係においてすすめられることや促されることの効果がうかがえた。

2. 集合型の研修への参加意欲が高い

興味・関心のある内容の研修であることを前提とした、実施方法の違いによる参加意欲や参加のしやすさとして、オンラインによる集合研修では7割、直接、対面の集合研修では8割の方が参加したいと回答しており、特に、直接、対面の「受講者同士の意見交換・グループワーク『あり』」の研修へのニーズが高いことがうかがえた。

オンラインツールを用いた研修も、その普及により苦手意識が薄れてきたことがうかがえるものの、オンラインによる集合研修、オンデマンド（eラーニング）で3割程度が「あまり参加したくない」「参加したくない」と回答している。

3. 1日当たり3時間程度の研修が参加しやすい

興味・関心のある内容の研修であることを前提として、参加しやすい1日当たりの時間数は、「直接、対面の集合研修（受講者同士の意見交換・グループワーク『あり』）」を除き、3時間未満との回答が6割以上を占めた。ただし、「直接、対面の集合研修」の場合には、3時間以上であっても、参加しやすいとの回答が4～5割程度あり、オンラインツールを用いた研修よりも、長時間の研修でも参加できると考えられていることがうかがえる。

また、受講者同士の意見交換やグループワークがある場合には、ない場合よりも長時間の研修に参加できるとの回答が多かったが、それでも1～2割程度の多さに留まっている。

【総括】

- ・ 従来型の研修での傾向や昨今の介護現場の多忙な状況などから、①時間・場所にとらわれないオンラインツールを用いた研修へのニーズ、②1日拘束されるよりも短時間で実施される研修へのニーズ、③受講者同士での意見交換・グループワークを伴う研修へのニーズ、これらの高まりを予想していたものの、顕著な違いは見られなかった。雇用形態や職種での違いを見ることも試みたが、同様に顕著な違いは見られなかった。
- ・ 参加しやすい研修の実施方法の外形的な要素を適切に把握できとは言えないが、研修の実施方法については柔軟に検討や試行をしながら、効果的かつ参加しやすいものとなるよう、引き続き検討をしてまいりたい。